

## キャベツ年内定植とべたがけによるゴールデンウイーク出荷

寒玉系キャベツは生食用にも加工用にも利用でき、周年生産が求められるが、4～5月は生産量が少なく、端境期となる。そこで、凍害防止のための保温資材であるべたがけを利用し、淡路島において5月上旬に出荷できる秋まき年内定植の作型を開発した。

### 内 容

5月上旬どりの作型に求められる特性は、早めに結球するが小玉（チャボ玉）にならないこと、裂球しにくいこと、<sup>ない</sup>抽苔しないことなどである。これらに適する品種として「ことみ（写真）」（日本農林社）を選定し（データ略）、播種、定植日の違いや不織布のべたがけの有無による収量、品質への影響を調査した（表）。

播種日は2017年10月4日、16日、25日、定植日はそれに応じて11月15日、24日、12月5日としたが、収穫日はこれらの3回の播種、定植時期の違いでは変わらず、べたがけありでは5月1日～7日、べたがけなしでは5月7日～14日の収穫となった。

販売には問題にならないが、播種日、定植日が早いものほど花芽分化を起こし、茎頂には直径5mm程度の小さな花芽を生じた。

可販収量はべたがけありで7.3～7.6t/10a、べたがけなしでは5.6～7.4t/10aで、べたがけをするこ

とで、球はやや大きくなり、収量も多くなる傾向であった。

以上のことから、花芽分化による抽苔の危険性を考えて、播種は10月中下旬、定植は11月下旬～12月上旬が適し、べたがけをすることで5月初めから収穫できることが明らかになった。

### 普及上の注意事項

べたがけを早くしすぎると、葉が小さいうちから結球を始めてチャボ玉になるため、2月になってから行う。

竹川 昌宏（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）



写真 5月1日収穫のキャベツ「ことみ」

表 淡路島での「ことみ」の作型と収量、品質

べたがけ	播種日	定植日	収穫日	結球重 (g)	裂球率 (%)	花芽分化 球率 (%)	可販収量 (t/10a)
あり	10月4日	11月15日	5月1～7日	1,731	0	20	7.6
	10月16日	11月24日	5月1～7日	1,755	5	15	7.3
	10月25日	12月5日	5月1～7日	1,774	5	5	7.4
なし	10月4日	11月15日	5月7～14日	1,705	25	25	5.6
	10月16日	11月24日	5月7～14日	1,517	0	0	6.7
	10月25日	12月5日	5月7～14日	1,689	0	0	7.4

2条植え、うね幅130cm、株間35cm、べたがけ (NEWアイホッカ) 2/2～3/28.